

平成24年度国立吉備青少年自然の家教育事業

## 吉備ボランティア養成研修

平成24年5月12日(土)～13日(日)

### 1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

青少年教育施設の今日的な役割を理解し、子どもたちの体験活動を支援するボランティア活動について基礎的な知識や技術を習得し、施設ボランティアとしての資質と能力の向上を図る。

### 2. 事業の概要

#### (1) 期日

平成24年5月12日(土)～13日(日)

〔平成24年5月27日(日)ボランティア総会〕

#### (2) 募集人員

30名

高校生、大学生(専門学校生を含む)及び社会人

#### (3) 参加者

47名 大学生46名、専門学校生1名

(岡山県42名 香川県2名 広島県2名 滋賀県1名)

#### (4) 研修内容

##### 講義1「ボランティア活動の意義」

内容: ボランティア活動の意義について理解するとともに、ボランティア活動・学習、心構え及び留意点を学ぶ。また、ボランティア活動の楽しさについても学ぶ。

講師: 広島県立福山少年自然の家 副所長 石川 順雄

##### 実習1「救命救急法」

内容: 応急手当など、救命救急に必要な知識・技術を習得する。

指導: 日本赤十字社岡山県支部 救急法指導員

##### 講義2「青少年教育における体験活動の意義と必要性」

内容: 青少年の社会性の遅れなど、今日の社会を背景に青少年教育上の課題について学び、発達段階に応じた体験活動の必要性を理解する。また、学校教育における体験活動の意義について学ぶ。

講師: 国立吉備青少年自然の家職員

##### 講義3「教育課程と体験活動」

内容: 学校の教育課程に体験活動を取り入れる意義を理解し、体験活動を実施する上で指導者として留意すべき事項について学ぶ。

講師: 国立吉備青少年自然の家職員

##### 講義4「青少年教育施設の現状と運営」

内容: 青少年教育施設の教育機能や役割、運営について理解する。

講師: 国立吉備青少年自然の家職員



—仲間づくり—

実習2「野外炊事 安全管理確認とふりかえり」

内容: 野外炊事を通して、仲間づくりや指導方法を学ぶ。

指導: 国立吉備青少年自然の家職員

講義5「ボランティア活動の理解」

内容: 青少年教育施設におけるボランティア活動の内容と登録制度について理解する。

講師: 国立吉備青少年自然の家職員

(5) 企画・運営のポイント

実施時期については、施設の行事計画と大学生の参加しやすい時期を調整し5月中旬とし、参加者募集については、岡山県を中心に広報活動を実施した。また、大学への広報については直接大学を訪れ呼びかけもした。その際、スライドや写真を使ったりボランティアの年間活動計画を示したプリントを配付したりして、活動が具体的に分かるように工夫した。

研修内容はボランティア養成のカリキュラムをもとにして、自然体験活動指導者養成のカリキュラムを加えたものにした。法人ボランティアとともに自然体験活動補助指導者として求められる知識や技術を取得する研修とし、ボランティアの資質向上がより一層図れる内容とした。

講義1「ボランティア活動の意義」については、教育行政の視点からも学べるように福山少年自然の家副所長石川順雄氏を講師として招聘した。

吉備ボランティア養成研修後、日を改めてボランティア総会を開催した。そこでは、更新ボランティアとの顔合わせや今年度の活動について確認し、より成果の上がるボランティア活動となるような協議の場となるようにした。



—講義—

3. 活動の内容等

(1) 日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
5月12日				受付	開講式	オリエンテーション 仲間づくり①	講義1	昼食	実習1 救命救急法	仲間づくり ②	講義2	夕食	講義3	休憩	入浴	就寝	
5月13日	起床・洗面	清掃	朝のつどい	朝食	講義4	実習2 野外炊事		講義5	閉講式								

(2) 活動の状況

1日目は、オリエンテーションに仲間づくりのためのアイスブレイクを取り入れ、受講者間の人間関係をほぐし、より良好な雰囲気のもと講義へと展開した。午前中に外部講師がボランティア活動のすばらしさや意義、心構えについて説明した。午後は、一次救命措置やAEDの使用法を実習を通して学んだ。「体験活動の意義」については、人間の成長には体験活動が良い影響を及ぼしていることや、体験活動と学校教育との関係を実施事例を通して理解を深めた。

2日目は実際に野外炊事を行い、子どもたちを対象とした野外炊事の支援に当たる際に、ボラン

ティアとしてどんなことが大切なのかを考えた。最後に、昨年の吉備でのボランティア活動の様子をスライドや写真を用いて紹介し、今年度予定している活動についての理解を深めた。

## 4. 成果・課題

### (1) 成果

ボランティア活動の内容が伝わるように広報に力を入れた結果、より多くの受講者を募ることができた。外部講師には、本施設のボランティア活動の内容にもふれながら専門的な講話を頂くことで、研修後、アンケートにボランティア活動参加への意欲が感じられる声やふりかえりがあり、研修の成果を感じた。



—野外炊事—

### (2) 参加者の声

- 事業全体に対する満足度 ……100%
- 事業のプログラムに対する満足度…100%
- 事業の運営に関する満足度 ……100%
- 職員の指導、助言に関する満足度…100%

参加者アンケート 自由記述より

- ・教師視線について考える良い機会となった。
- ・自分たちの技術向上とともに、子どもたちと実際に活動したときの注意点などをたくさん知ることができたので受講して本当に良かった。
- ・ボランティアについて知識が深められるとともに新しい発見ができて良かった。
- ・たくさんの人との関わりの中で自分の行動への責任・相手を思いやる気配りができて良かった。
- ・また吉備に来たいと思った。
- ・面白く親しみやすかったし、良い指導をしていただいたと思う。

### (3) 今後の課題等

- ・野外炊事後に安全管理に関わる講義を行ったが、受講者が先に安全管理など活動のねらいを踏まえた上で実習に望むと効果的であると感じたため、事前指導をさらに充実したものにしていきたい。
- ・実際のボランティア活動では、いろいろな方と関わるため、研修の中で朝のつどいなど他団体との関わりがもてる場面を設定していきたい。
- ・法人ボランティア登録と自然体験活動補助指導者の養成とを共通カリキュラムを通して研修を実施しているが、参加者に自然体験活動補助指導者養成を目指している意図が理解されていないと感じられないことから、主催者としての意図が伝わるよう、来年度は広報でもさらに説明に当たりたい。

担当：企画指導専門職 飯石 浩二